

# 職業リハビリテーション学会通信

NO.162 2020年 6月発行

## 巻頭言

## 新型コロナウイルス 感染拡大下での本学会の使命とは

日本職業リハビリテーション学会の会員の皆様方におかれましては、日頃から学会運営に多大なるお力添えをいただき、心から感謝申し上げます。

全世界の人々の健康と日々の暮らしに未曾有の影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染拡大に対して、皆様一同、ご苦心とご奮闘の日々であろうとお察し申し上げます。

本学会の活動も様々な制約を余儀なくされています。愛知県を中心とした中部ブロックの会員の皆様のご尽力で準備を進めていただいていた第48回大会も苦渋の判断で、来年度に延期せざるを得なくなりました。例年であれば、この通信の巻頭言で、大会に向けての関心を高々と喚起いただいているところですが、学会長のコメントに取って代わらざるを得なくなりました。学会誌、地域での研究活動等にも影響が及び、皆様の日々の実践・研究等の後押しとしての機能が低下せざるを得ない事態を大変申し訳なく思っております。最善の対応策を議論すべき運営理事会も対面での集合は叶わず、リモートでの対応を余儀なくされています。

その上で、今後の雇用情勢等の変化を踏まえると、職業リハビリテーションの対象となる障害のある人々や職業生活に困難を抱える人々を取り巻く状況は厳しくなることが予想されます。新型コロナウイルスが及ぼす影響がこうした人々にも同様に降りかかることは止むを得ないことかもしれません。しかしながら、その特性ゆえに後回しで良いことにはならないはずで、障害のある人の雇用や就労は決して不要不急のことではなく、経済が好調の時に反射的に生まれる恩恵でもありません。

それゆえ、会員の皆様がそれぞれの場でご苦心・ご奮闘されていることを紡ぎあい、少しでも今後生じる課題解決につながる道筋を示していければと思っています。

新しい生活様式が謳われています。感染拡大防止に最善を尽くすことはもちろん大切ですが、果たしてコロナ禍以前の障害者雇用・就労の世界はそもそもあるべき姿であったのか。その課題が浮き彫りにされた現在の社会状況の中で、そして制約された環境下で、なお、職業リハビリテーションの本質を探究する思いを皆様と共有できればと願っています。

どうぞ、くれぐれもお身体を大切にされて下さい。支援の先にある人々のためにも、ご家族やお仲間のためにもそして、誰も排除しない社会の実現のためにも。

日本職業リハビリテーション学会 会長 朝日雅也

2019年度第4回運営理事会報告	2P
2020年度第1回運営理事会報告	4P
委員会報告	5P
ブロック活動報告	5P
会員投稿・報告	6P
事務局からのお知らせ	7P